

ALPS 処理水希釈放出設備 現地確認結果 報告書(概要)

確認年月日	令和 4 年 10 月 26 日(水)	確認目的	飼育試験の進捗等
確認箇所	海洋生物飼育試験施設		
確認設備	<input type="checkbox"/> 測定・確認用設備	<input type="checkbox"/> 移送設備	<input type="checkbox"/> 希釈設備 <input checked="" type="checkbox"/> その他

通常海水や希釈したALPS処理水を使用した飼育試験が行われていることから状況を確認した。

- ・ 現在、通常海水を使用した2系統にてヒラメ計340匹程度、ALPS処理水を海水で希釈し、トリチウム濃度を1500Bq/L程度にした2系統でヒラメ計400匹程度、アワビ数十匹が飼育されている。(写真1)
- ・ 室温は20℃程度、水温は約18℃になるよう調節し、水質は海洋生物を健康な状態で飼育できるように、紫外線照射、生物ろ過、オゾン処理及びばっ気等を行っている。(写真2)
- ・ 水温、水質は常にモニタリングしており、異常があった場合には担当者の携帯電話にメールが自動的に送信される。(写真3)



(写真1-1) ヒラメ水槽の状況



(写真1-2) アワビ水槽の状況

確認結果



(写真2) ファンや食べ残しを除去するプロテインスキマー



(写真3) 水温等のモニタリング状況

【東京電力からの聴取内容】

- ・ アワビは本日(26日)午前3時からALPS処理水を利用した水槽で飼育を開始した。飼育開始から1, 2, 4...時間後というようにアワビを採取し、そのトリチウム濃度(組織自由水トリチウム)を測定することによって、生体内部のトリチウム濃度が平衡状態に達し、生育環境以上にならないことを示したいと考えている。
- ・ また、トリチウム濃度が平衡状態に達した生体を通常海水に戻してその濃度が低下することも示したいと考えている。